
全天候型体育文化施設整備のあり方

令和元年9月5日

健康・スポーツ環境充実検討会

目 次

はじめに	1
1 健康・スポーツ環境充実検討会 検討に至る経緯	2
2 健康・スポーツ環境充実検討会 検討の経過	3
第1回 健康・スポーツ環境充実検討会(平成30年8月28日)	3
第2回 健康・スポーツ環境充実検討会(平成31年1月22日)	4
第3回 健康・スポーツ環境充実検討会(令和元年5月9日)	17
第4回 健康・スポーツ環境充実検討会(令和元年8月27日)	27
3 大規模アリーナと武道館整備の必要性と課題の整理	29
4 検討会としての方向性	29

はじめに

人生 100 年時代を迎えようとしている現代において、スポーツは、健康の増進や体力向上はもとより、健康寿命を延ばし、明るく豊かで活力に満ちた社会を築くうえで、大変重要な役割を果たしています。なかでも、幼少の頃から気軽に質の高いスポーツに触れることができ、全ての県民が心と体の健康づくりを推進するためのスポーツ活動を楽しめるよう、ソフト・ハード両面のスポーツ環境の充実・改善が大変重要であります。

県内の既存の体育施設に関しましては、耐震化などの改修はしているものの、開館からかなりの年数が経過しており、設備更新などの課題を抱えている施設も多くなっています。

また、全天候型体育文化施設については、長期ビジョン、総合計画などで大規模コンサートが開催できる多目的スポーツ施設を求める声があり、一方で、財政状況や少子高齢化・人口減少時代に必要性を疑問視する声もありました。

平成 29 年 12 月に実施した「健康と運動・スポーツに関する県民意識調査」では、スポーツの試合や文化教養・コンサートでの活用ができる全天候型の多目的施設の整備について、「前向きに検討すべき」が 17.1%、「必要だと考えるが、既存施設の統廃合・行財政を考慮したうえで検討すべき」が 52.6%、「不必要」と答えた方は約 25%となっており、諸課題に留意しながら多角的な検討を進めていくことが求められていました。

これらを踏まえ、スポーツ関係者、経済界、まちづくり等の各分野の方からなる健康・スポーツ環境充実検討会が設置され、今後の健康やスポーツ環境充実のためのソフト・ハード両面の基本的な方向をはじめ、全天候型体育文化施設整備の可能性について検討を重ねてきました。

この度、これまでの議論を踏まえ、全天候型体育文化施設整備のあり方について、検討会の意見をとりまとめました。

1 健康・スポーツ環境充実検討会 検討に至る経緯

(1) 全天候型多目的スポーツ施設の整備を求める声

- 富山県経済・文化長期ビジョン(平成28年9月策定)や富山県総合計画「元気とやま創造計画」(平成30年3月策定)の策定の議論の中で、大規模コンサートが開催できる全天候型多目的スポーツ施設の整備を求める声があった一方で、財政状況や少子高齢化、人口減少時代に必要性を疑問視する声もあった。

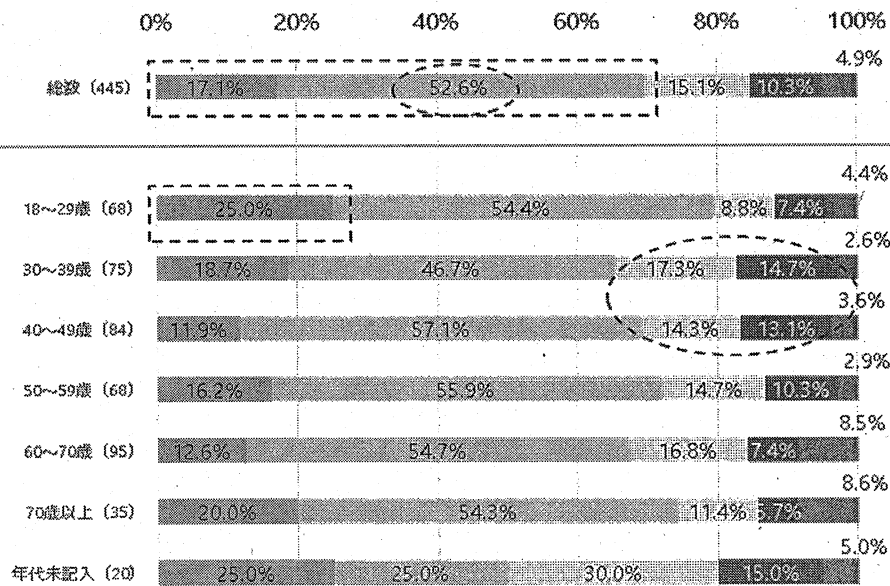
(2) 健康と運動・スポーツに関する県民意識調査

- こうしたことから、県民のニーズを把握し、分析するため、平成29年12月に「健康と運動・スポーツに関する県民意識調査」を行った。
- 調査結果では、多目的な全天候型施設を「ぜひ必要だと考えるので、前向きに検討を進めるべき」が17.1%、「必要だと考えるが、既存施設の統廃合など、県の行財政状況等を十分考慮したうえで検討を進めた方がよい」が52.6%となっており、条件付きをあわせると「必要」が約7割となっている。
- 他方で、「不必要」が25.4%となっており、これに「必要だと考えるが、既存施設の統廃合など、県の行財政状況等を十分考慮したうえで検討を進めた方がよい」が52.6%であることを勘案すると、県民の大部分は、多目的な全天候型施設については慎重な検討を望んでいると考えられる。

■ 健康と運動・スポーツに関する県民意識調査

- ・ 調査期間：平成29年12月1日～12月31日
- ・ 調査方法：満年齢18歳以上の富山県全域の1,200人を住民基本台帳から無作為抽出
- ・ 回答数：445人(37.1%=445人/1,200人)

多目的な全天候型施設整備の必要性



- 1.ぜひ必要だと考えるので、前向きに検討を進めるべき
- 2.必要だと考えるが、既存施設の統廃合など、県の行財政状況等を十分考慮したうえで検討を進めた方がよい
- 3.現在の本県の人口規模や現在の施設の整備状況を見ると必要性を感じない
- 4.県政の優先課題が他にも多くあることから、必要性を感じない
- 5.どちらともいえない(未記入含む)

(3) 健康・スポーツ環境充実検討会の設置

- こうした県民意識調査結果を踏まえ、より幅広い掘り下げた意見を聴く必要があると考え、スポーツ関係者、経済界、まちづくり等の各分野からなる健康・スポーツ環境充実検討会を設置し、基本的な方向について検討することとなった。

2 健康・スポーツ環境充実検討会 検討の経過

第1回 健康・スポーツ環境充実検討会(平成30年8月28日)

■概要

(1)「健康と運動・スポーツに関する県民意識調査」結果報告及び 健康・スポーツ環境の現状と課題

(2)基調報告「これからのアリーナのあり方」

早稲田大学スポーツ科学学術院 教授 間野 義之 氏

- ・今後のスタジアム・アリーナ整備には、総合的な官民プロジェクトとして捉えていくことが重要。(官民パートナーシップの構築、官民の適切なリスク分担、資金調達)
- ・アリーナ整備のポイントとして、①郊外ではなく市街地、公共交通の複数駅・複数路線などアクセスの良い立地条件や②音楽コンサート、演劇、展示会などスポーツと親和性の高い事業との多機能・複合化、③大きな搬入口や広いバックヤードなど主催者の利便性の高い設備構成などの観点が必要。

(3)意見交換

○主な意見

- ・海外の類似施設を見ても、郊外の場所で多くの駐車場を造るというよりも、なるべくまちなかに立地した方が便が良くて稼働率が高い。
- ・都市間競争を勝ち抜くためにも、夢のあるプロジェクト。ただし、建設する場合は、大きな施設だと建設費も多額になるだけでなく、維持管理費もかかることから運営も工夫しなければならない。
- ・官民連携が必要であり、民のアイデアや資金を考えないといけない。
- ・費用対効果の問題もある。公共施設に企業会計の手法を用いて、しっかり将来予測計画もたてる必要がある。
- ・国際的な競技大会の開催条件が厳しくなっており、本格的なアリーナでなければ開催ができなくなってきている。
- ・東京ガールズコレクションなどの若者が求めているイベントを通じ、拠点があると地域活性化の役割を果たすと感じた。
- ・富山武道館、高岡武道館ともに古い施設のため狭く使いにくい。武道振興のためにも武道館整備が必要だと考える。
- ・県全体をみると、国際的な大会やイベントの集客を考えると、作る場合には、アクセスの良い場所に整備するのが望ましいと思われる。
- ・県と市町村の施設で役割分担を明確にすべき。まず、施設で何をするのか、そのためにどのような施設が必要なのか議論を進める必要がある。

【まとめ】

委員からの意見を踏まえ、コンサルティング会社に①「全天候型体育文化施設」の必要性、②施設の機能・規模や立地条件、整備にかかる概算費用や③整備後のコンサート開催のニーズも含めた運営のシミュレーション分析の基礎調査を委託し、次回の検討会では、施設を整備するかどうかの方向性、整備する場合の費用や運営費用・課題などについて議論を深める。

第2回 健康・スポーツ環境充実検討会(平成31年1月22日)

■概要

(1)調査報告「全天候型体育文化施設等整備・運営に係る基礎調査」

(株)三菱総合研究所 主任研究員 福田 泰三 氏

- ・全天候型体育文化施設整備の実現可能性の検討にあたり、県内外から集客できるスポーツ・文化・エンターテインメント等を誘致できる大規模施設が必要だという仮説を設定した上で、その妥当性や実現性を検証した。現在、県内に既にある体育文化施設は、「県民利用」、「県内からの集客」が基本となっているが、県ならではの役割として、より広域からの集客を構想していくことが重要。
- ・大規模なコンサートの開催誘致について、プロモーターからは、現状は北陸で開催されているのが二十数件程度あるので、新幹線駅である富山駅からのアクセスが良好であり、最大収容人数が8000～1万人程度のアリーナがあれば、最大10公演程度は誘致可能性がある。
- ・こうした観点で、施設内容や規模、大規模スポーツ大会やコンサートの開催誘致の可能性、初期投資額、事業収支等を比較すると、「地域経済振興や魅力創出による人口流出の抑制という目的からすれば、8000人規模アリーナが検討の俎上にあると考える。全国的にも競合施設が多い状況になることにも留意する必要がある。さらに、実現にあたり、富山駅周辺で大規模な敷地を確保する必要がある。
- ・また、武道館を整備する場合には、県民利用を主眼とした武道館は、既存の富山武道館や高岡武道館などと機能が重複するので、実現にあたって既存施設の統廃合も併せて検討することが必要。

健康・スポーツ環境充実検討会資料

■ 全天候型体育文化施設等整備・運営に係る基礎調査委託

2019年1月22日

1 : 全天候型体育文化施設整備の必要性

全天候型体育文化施設の検討にあたっての基本的考え方

- 富山県としてどのような目的意識を持った施設を構想していくのか見定めることが重要。
- 本検討では、主たる必要性を「富山県の地域経済振興・魅力創出による人口流出の抑制」と見定め、県内外から集客できるスポーツ・文化・エンターテインメント等を誘致できる大規模施設が必要と仮説設定し、その妥当性や実現性を検証した。
- 他方「県民のスポーツ振興・健康寿命の延伸」も重要な視点であるが、既存施設や市町村施設がその役割をカバーしている。上記の大規模施設の実現性が認められない場合、既存施設の見直し・建替えや、市町村施設との役割分担を含めて検討することとした。

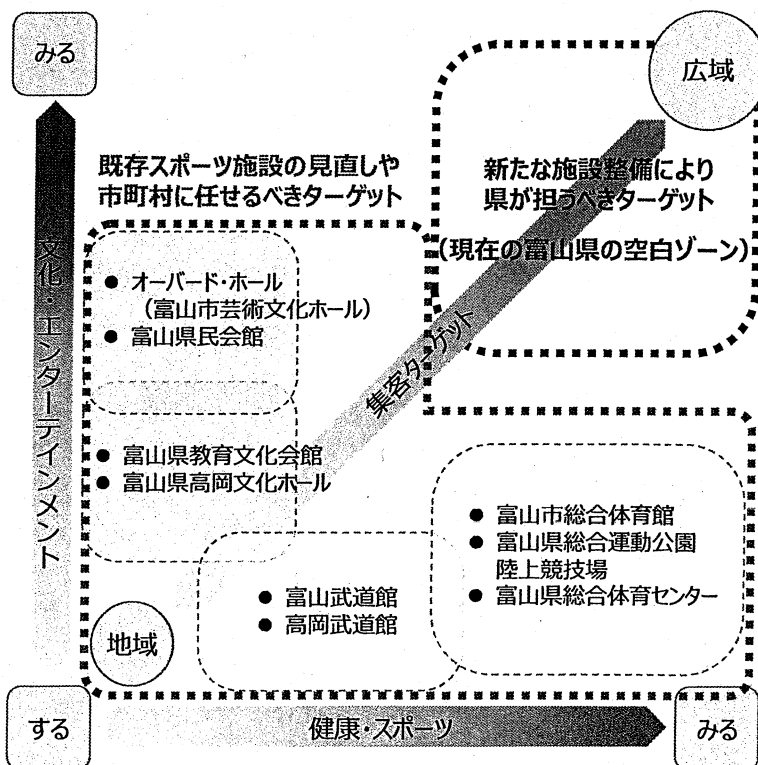
	方向性①	方向性②
目的意識	富山県の地域経済振興 魅力創出による人口流出の抑制	県民のスポーツ振興 健康寿命の延伸
施設整備の方向性	県内外から集客できるスポーツ・文化・エンターテインメント等を誘致できる大規模施設の整備	市町村施設との役割分担 既存施設の見直し・建替え

本検討で設定した主たる方向性

1 : 全天候型体育文化施設整備の必要性

全天候型体育文化施設の検討にあたっての基本的考え方

- 県内には右図に示す体育文化施設が存在しているが、「県民利用」「県内からの集客」が基本。
- 県ならではの役割としてより広域からの集客を構想していくことが重要。
- 現状の富山県ではその役割を担う体育文化施設は存在していないため、新施設を構想するならば、この空白ゾーンをターゲットとするべきではないかと想定。



1 : 全天候型体育文化施設整備の必要性

全天候型体育文化施設の検討にあたっての基本的考え方

- スポーツの成長産業化は、官民戦略プロジェクトの1つとして位置づけられている。
- スポーツ産業の基盤となる、スタジアム・アリーナについては、その集客力を生かして地域活性化への貢献が期待されている。
- スタジアム・アリーナは、スポーツだけでなく、コンサートやイベントなど多様な活動を実施し、多世代が集う交流拠点であり、2025年までに20拠点整備することが目標として掲げられている。

国の取り組み

- | | |
|-------------------------------------|--|
| 日本再興戦略2016
(平成28年6月) | ■ 官民戦略プロジェクト10の1つとして、スポーツの成長産業化が位置付けられる。
■ スタジアム・アリーナの集客力を生かした地域活性化が期待される。 |
| 未来投資戦略2017
(平成29年6月) | ■ スポーツのほか音楽イベントや健康づくりなど、賑わいやコミュニティ創出の拠点とするスタジアム・アリーナ改革を推進する。
■ 全国のスタジアム・アリーナについて、多様な世代が集う交流拠点として、2025年までに新たに20拠点を実現することが具体的な目標として掲げられる。 |
| スタジアム・アリーナ改
革ガイドブック
(平成29年6月) | ■ スポーツ未来開拓会議を開始し、スタジアム・アリーナ推進官民連携協議会を立ち上げ議論を行い、スタジアム・アリーナ改革に向けた基本的な考え方を提示した。
■ 協議会では、先進的なスタジアム・アリーナ整備に向けた環境作りを推進する。 |

出所：日本再興戦略2016 — 第4次産業革命に向けて— (平成28年6月)、未来投資戦略2017 — Society5.0の実現に向けた改革— (平成29年6月)、スタジアム・アリーナ改革ガイドブック (平成29年6月 スポーツ庁 経済産業省) をもとに作成

4

1 : 全天候型体育文化施設整備の必要性

全天候型体育文化施設の検討にあたっての基本的考え方

- スタジアム・アリーナ改革に向けて、特に重点的に考慮すべき項目として4点挙げられている。
①集客力を高めまちづくりを支える持続可能な経営資源、②プロジェクト上流段階において検討されるべき事項、③収益・財務、④事業推進・運営
- ①では、機能や設備、立地、運営について望ましい方向性が示されている。

集客力を高めるまちづくりを支える持続可能な経営資源としての要件

- | | |
|-------------------------|---|
| 顧客経験価値の向上 | ■ スポーツを観る人としての顧客経験価値の最大化が必要。
■ 具体的には、観戦環境、臨場感、興奮、円滑な移動、飲食の質、清潔さ、安全等、多岐にわたり、実現に向けて新技術やニーズ調査、スタジアム・アリーナをホームとするスポーツチームとの連携が必要。 |
| 多様な利用シーンの実現 | ■ スタジアム・アリーナの集客力や収益性の向上のため、スポーツイベント、コンサート、コンベンション等の多様な利用シーンを実現できる仕様・設備が必要。 |
| 収益モデルの確立とプロフィットセンターへの変革 | ■ 魅力的なスポーツイベントやコンサート等が開催でき、収益を最大化・多元化できることが必要。
■ 「観るスポーツ」のための施設として必要な機能は、必要なスペックとして検討することが望ましい。 |
| まちづくりの中核となるスタジアム・アリーナ | ■ 利便性の高い場所に立地すばきであり、駅や道路等のアクセルートの整備や周辺エリアとのネットワーク形成等の一体的な開発が図られることが重要。
■ まちとの連続性を確保するとともに、周辺に質の高いオープンスペースを配置することで、にぎわいの創出を図れるようにすることが望ましい。 |

出所：スタジアム・アリーナ改革ガイドブック (平成29年6月 スポーツ庁 経済産業省) をもとに作成

5

1 : 全天候型体育文化施設整備の必要性

まちなかの活性化を意図したスタジアム・アリーナの整備動向

- 近年整備されたスタジアム・アリーナは、観やすさや利用しやすさ、アクセスのよさ、運営面での工夫を行っているものがみられる。
- 広島市民球場は、特徴的な観客席を多数用意したり、まちとの一体感を生み出す施設設計となっており、周辺には民間施設が集積している。
- アオーレ長岡は、市役所機能を中心とする複合施設で中心市街地に立地している。
- ゼビオアリーナ仙台は民設民営施設で、観るスポーツを中心としたイベントに利用されている。

	広島市民球場 (2009年竣工)	アオーレ長岡 (2012年竣工)	ゼビオアリーナ仙台 (2012年竣工)
概要	広島東洋カーブが指定管理者として運営管理を行う球場 球団のアイデアを取り入れた機能・施設設計	中心市街地に立地する、市役所機能とホール機能、広場機能をもつ複合施設	建設・運営を民間資本で行う多目的アリーナ 周辺には、スポーツ・フィットネス・ウェルネス関連施設が集積
アクセス	JR広島駅から徒歩約10分	JR長岡駅から徒歩3分	JR長町駅（JR仙台駅から1駅）、地下鉄長町駅から至近
プロチーム	広島東洋カーブの専用球場（本拠地）	新潟アルビレックスBB（Bリーグ）のホームアリーナ	仙台89ERS（Bリーグ）のホームアリーナ
まちづくり	街との一体感に配慮し、新幹線などJR車窓からも球場の楽しさを感じられる	長岡市の総合戦略に、“バスケットによるまちづくり”が位置付けられている	仙台市太白区あすと長町の開発プロジェクトの1つ

出所：スタジアム・アリーナ改革ガイドブック（平成29年6月 スポーツ庁 経済産業省）をもとに作成

1 : 全天候型体育文化施設整備の必要性

全天候型体育文化施設が目指すべき事業目的








- 富山県経済・文化長期ビジョン（富山県）、まちなかスタジアム構想（富山経済同友会）、北陸新幹線金沢開業の整理と敦賀延伸に向けた課題報告書（北陸経済連合会）、近年のスタジアム・アリーナに求められる役割・機能を踏まえ、富山県が目指す全天候型体育文化施設の事業目的を、下表のとおり設定した。

事業目的	期待される効果
中心市街地全体の集客力向上	● 大規模イベントの実施等により交流人口・関係人口が増加することで、地域内外での消費が促進され地域経済の活性化につながる。
地域に対する誇りの醸成	● 魅力創出による富山への愛着が醸成されることで、結果として人口減少や若者流出の抑制につながる。
日常的にスポーツや文化に触れられる機会の創出	● 世界的・全国的なスポーツイベントや著名アーティストのコンサート等に日常的に触れることで精神的な豊かさの醸成につながる。

1 : 全天候型体育文化施設整備の必要性

求められる施設内容・規模の仮説設定

- 「地域経済振興・魅力創出による人口流出の抑制」を実現するための利用形態として、大規模コンサート・プロスポーツ・国際大会が開催可能な施設内容・規模を以下のとおり設定した。
- 加えて、県内大会・県民利用に適した施設内容・規模もあわせて設定した。

全天候型スタジアム (2万人規模)	アリーナ (1万人規模)	アリーナ (8千人規模)	アリーナ (5千人規模)	武道館 (3千人規模)	武道館 (1千人規模)	既存施設の見直し
						
※1	※2	※3	※5	※4	※5	※5
【最大収容人数】 20,000人程度	【最大収容人数】 10,000人程度	【最大収容人数】 8,000人程度	【最大収容人数】 5,000人程度	【最大収容人数】 3,000人程度	【最大収容人数】 1,000人程度	【最大収容人数】 3,000人程度
【競技面規模】 サッカー専用フィールド 約100m×約70m (約7,000㎡)	【競技面規模】 バスケットボール4面 約100m×約45m (約4,500㎡)	【競技面規模】 バスケットボール3面 約70m×約45m (約3,150㎡)	【競技面規模】 バスケットボール2面 約50m×約45m (約2,250㎡)	【競技面規模】 柔道6面 バレーボール3面 約35m×約45m (約1,575㎡)	【競技面規模】 柔道4面 バレーボール2面 約34m×約34m (約1,156㎡)	【競技面規模】 バスケットボール2面 約50m×約36m (約1,800㎡)

大規模コンサート

J1・J2公式戦 国際大会 (バレー・バスケット) 国内リーグ (バレー・バスケット)

(興行利用時以外の一般利用) 県内大会 (バレー・バスケット等)・県民利用

理想する利用形態

目的

地域経済振興・魅力創出による人口流出の抑制 県民のスポーツ振興・健康寿命の延伸

現在の富山県の空白ゾーン 写真出所：※1豊田スタジアムHP ※2武蔵野の森スポーツプラザHP ※3セキスイハイムスーパーアリーナHP ※4兵庫県立武道館HP ※5三菱総研撮影

2 : 大規模スポーツ大会やコンサートの開催・誘致の可能性

バスケットボール・バレーボール

- 国際大会：日本で開催される可能性は年間1回程度であり、開催場所も大都市圏に限られており、富山県に誘致することは難しい。日本代表戦以外のWCバレーは富山での開催実績あり。
- プロリーグ：富山県内で活躍しているプロチームは、既にホームアリーナを有しており、新施設に誘致するには市との役割分担が必要である。
- 県内大会：観客は選手や関係者に限られ、収容人数は最大でも5,000人程度である。

競技種目	大規模スポーツ大会等の開催・誘致の可能性
バスケットボール	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国際大会：日本で開催されるのは数十年に1回程度であり、需要として想定することは難しい。 ■ B1リーグ：ホームゲームは年間30試合程度。富山グラウジーズは富山市総合体育館（最大4,000人程度）をホームアリーナとしている。オールスターゲーム2019は富山市総合体育館で開催（2019年1月19日）。 ■ 県内大会：社会人・大学・高校・中学など合わせて年間50大会程度。収容人数3,000人程度で十分である。
バレーボール	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国際大会：日本で開催されるのは年間1回程度、東京・大阪の大都市に限られており、富山県に誘致することは難しい。WCバレーは富山市総合体育館で開催実績あり。 ■ Vリーグ：ホームゲームは年間10試合程度。KUROBEアクアフェアリーズは黒部市をホームタウンとしている。 ■ 県内大会：年間50大会程度。収容人数1,000～5,000人程度。

出所：国内競技連盟ヒアリング（日本バスケットボール協会、日本バレーボール協会）、県競技団体HP公表資料をもとに作成

2 : 大規模スポーツ大会やコンサートの開催・誘致の可能性

柔道・剣道

- 国際大会・国内大会：主要大会は会場が固定化されており、開催地を変えることは難しい。
- 県内大会等：県競技団体主催の大会・審査会等が、富山武道館、高岡武道館の他、県内各自治体の総合体育館等で開催されている。大規模な収容人数を確保する必要性は低い。

競技種目	大規模スポーツ大会等の開催・誘致の可能性
柔道	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国際大会：グランドスラムは東京体育館で固定化されている。世界選手権が日本で開催されるのは数年に1度で、日本武道館・東京武道館などに限られており、富山県に誘致することは難しい。 ■ 国内大会：主要大会は日本武道館、福岡国際センターに固定化されており、開催地を変えることは難しい。 ■ 県内大会等：県柔道連盟主催の大会・審査会等が、富山武道館、高岡武道館、アイシン軽金属スポーツセンター（射水市）、アルビス小杉総合体育センター（射水市）等で開催されている。
剣道	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国際大会：世界剣道選手権大会は3年に1回開催されているが、日本開催は当面ない。 ■ 国内大会：全日本剣道選手権大会が最も規模が大きい、例年、日本武道館で開催されることが決まっている。その他の主要大会も会場が固定化されており、開催地を変えることは難しい。 ■ 県内大会等：県剣道連盟主催の剣道大会が、富山武道館のほか、県内各自治体の総合体育館等で開催されている。

出所：国内競技連盟ヒアリング（全日本柔道連盟、全日本剣道連盟）、県競技団体HP公表資料をもとに作成

10

2 : 大規模スポーツ大会やコンサートの開催・誘致の可能性

大規模コンサート

- スタジアム：現時点では天然芝がリーグの条件であり、原状回復負担の大きさから、2万人規模では採算が取れないため、4万人程度の収容人数を確保することが求められる。
- アリーナ：収容人数5,000人程度では採算が合わず、最低でも8,000～10,000人程度を確保する必要がある。10,000人規模の集客力を有するアーティストは国内30団体程度しかなく、富山で集客できる団体はさらに限定される。

施設形態	大規模コンサートの開催・誘致の可能性
スタジアム	<ul style="list-style-type: none"> ■ 天然芝の原状回復費用を主催者が負担するため（8,000万円～1億円程度）、4万人程度の収容人数を確保できなければ採算が取れない。 ■ サッカーリーグの公式戦で使用するスタジアムは、現時点では天然芝が必須であるが、天然芝の場合、日照が必要なこと、原状回復が必要なことから、スタジアムコンサート会場として不向きである。 ■ 日本国内での会場規模4万人以上のスタジアムコンサートの公演数は、最近10年間で40～90公演程度とばらつきがあり、東京ドーム、京セラドーム大阪、ナゴヤドームの3施設で、公演数の9割近くを占めている。
アリーナ	<ul style="list-style-type: none"> ■ アリーナコンサートの場合、ホールコンサートと異なり、舞台・音響・照明等を準備する費用を主催者が負担するため、収容人数5,000人程度では採算が合わず、最低でも8,000～10,000人程度を確保する必要がある。 ■ 富山に10,000人規模のアリーナコンサートを誘致する場合、東京や大阪だけではなく、富山でも集客力のあるアーティストでなければ選択の翹上に乗らない。 ■ 日本国内で10,000人規模の会場を埋めることができるアーティストは30団体程度に限られており、富山では年間1公演程度が妥当で、10公演も誘致できれば成功である。

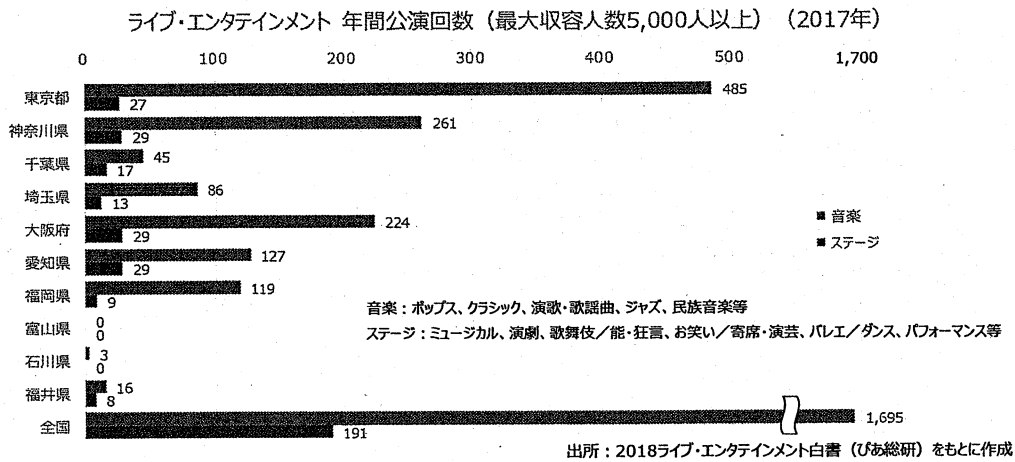
出所：北陸地方のプロモーターヒアリング（2社）、先進事例視察（北九州スタジアム、福岡市総合体育館、ゼビオアリーナ仙台）
2018ライブ・エンタテインメント白書（びあ総研）をもとに作成

11

2 : 大規模スポーツ大会やコンサートの開催・誘致の可能性

大規模コンサート

- 最大収容人数5,000人以上の大規模コンサート等の公演数は全国で約1,900公演（2017年）。
- このうち首都圏（1都3県）で約5割、大阪府・愛知県・福岡県で約3割を占める。
- 北陸3県では、福井県24件（全てサンドーム福井）、石川県3件（全て石川県産業展示館）。
- 富山県は2017年実績は無いが、2018年7月に東京ガールズコレクションの開催実績あり（富山市総合体育館）。新幹線駅からのアクセス良好な最大収容人数8,000～10,000人程度のアリーナがあれば、年間最大10公演程度の誘致可能性はある。

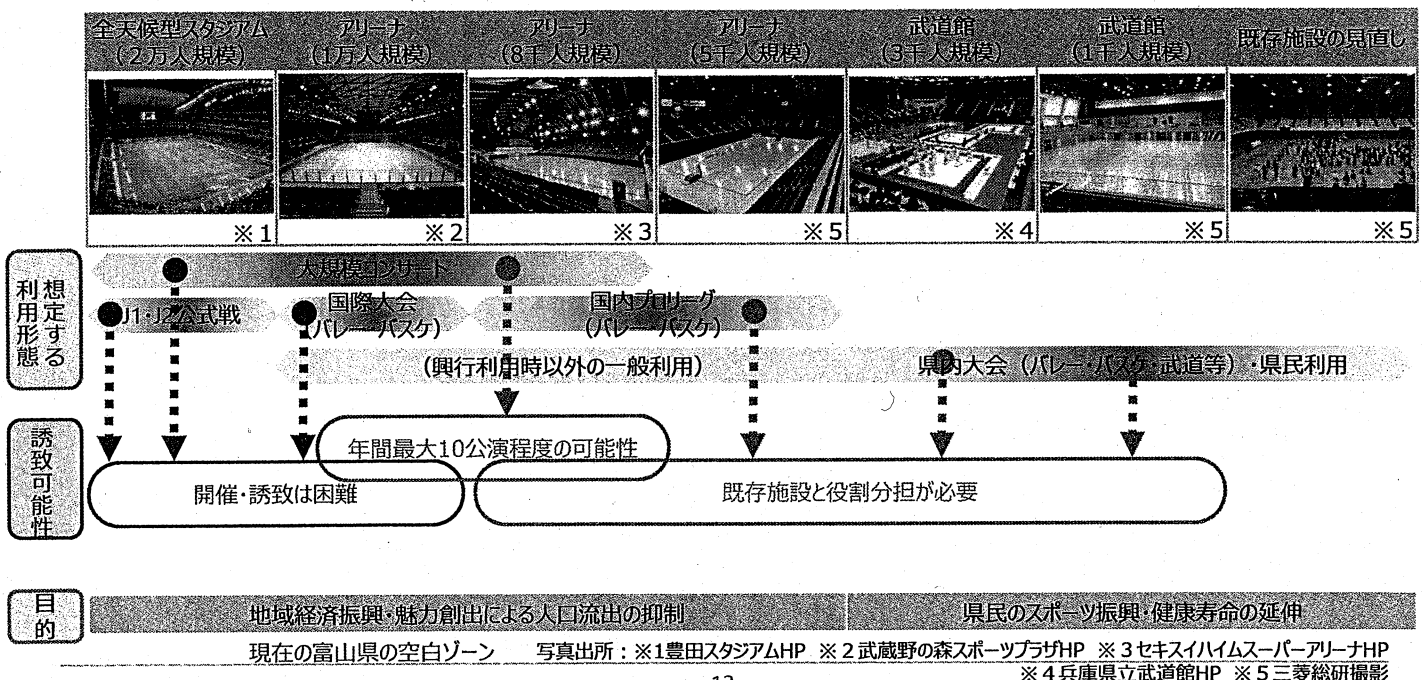


12

3 : 仮説設定した各施設パターンの評価

評価①：大規模スポーツ大会やコンサートの開催誘致の可能性

- スタジアム：コンサートやサッカーJ1・J2公式戦の誘致は極めて厳しく、富山での実現は現実的ではない。
- アリーナ・武道館：国際大会の開催・誘致は難しく1万人規模を確保する必要は低いが、コンサートを誘致できる8,000人規模のアリーナは検討の俎上に乗る。5,000人規模以下は既存施設との役割分担が必要。



13

3 : 仮説設定した各施設パターンの評価

評価② : 初期投資額

- スタジアム：アリーナや武道館と比較して建設単価は低めであるが、施設規模が大きく建設費は高額になる。
- アリーナ：大空間になるほど建設単価は増加する傾向にある。5千人規模ではロ-コストアリーナの実績もある。
- 武道館：建設単価はアリーナと同等かさらに高額となる傾向にある。

	全天候型スタジアム (2万人規模)	アリーナ (1万人規模)	アリーナ (8千人規模)	アリーナ (5千人規模)	武道館 (3千人規模)	武道館 (1千人規模)	既存施設の見直し
施設規模	延床50,000㎡ 敷地38,000㎡	延床25,000㎡ 敷地20,000㎡	延床20,000㎡ 敷地13,000㎡	延床13,000㎡ 敷地10,000㎡	延床15,000㎡ 敷地12,000㎡	延床10,000㎡ 敷地10,000㎡	延床-㎡ 敷地-㎡
建設費	210~250 億円程度	190~210 億円程度	100~170 億円程度	60~100 億円程度	120~140 億円程度	60~70 億円程度	-億円
目的	地域経済振興・魅力創出による人口流出の抑制 現在の富山県の空白ゾーン				県民のスポーツ振興・健康寿命の延伸		
	写真出所：※1豊田スタジアムHP ※2武蔵野の森スポーツプラザHP ※3セキスイハイムスーパーアリーナHP ※4兵庫県立武道館HP ※5三菱総研撮影						

14

3 : 仮説設定した各施設パターンの評価

評価③ : 単年度事業収支

- スタジアム：興行での使用日数が限られ運営収入は少ない一方、運営費用が大きいため、県負担は大きい。
- アリーナ：アリーナの規模が大きいほど県負担は大きくなる傾向にある。
- 武道館：興行利用が期待できず運営収入は少ない。県負担はアリーナと同程度と想定される。

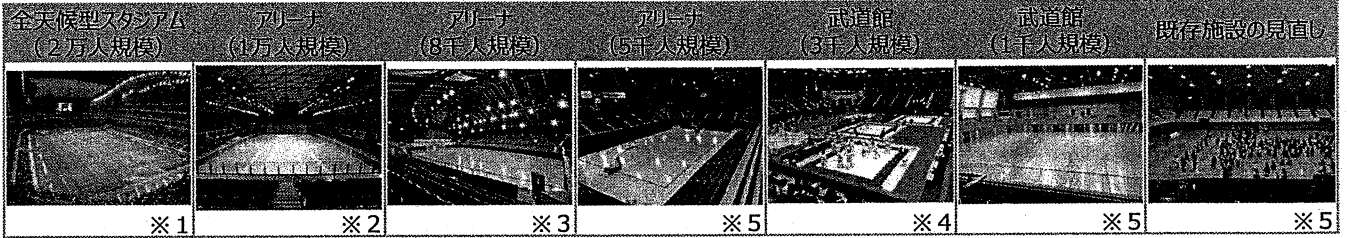
	全天候型スタジアム (2万人規模)	アリーナ (1万人規模)	アリーナ (8千人規模)	アリーナ (5千人規模)	武道館 (3千人規模)	武道館 (1千人規模)	既存施設の見直し
期待される 運営収入	26百万円/年 程度	100百万円/年 程度	75百万円/年 程度	48百万円/年 程度	10百万円/年 程度	6百万円/年 程度	-
運営費用	500~1,650 百万円/年 程度	325~525 百万円/年 程度	260~420 百万円/年 程度	169~273 百万円/年 程度	165~390 百万円/年 程度	110~260 百万円/年 程度	-
差収額	474~1,624 百万円/年 程度	225~425 百万円/年 程度	185~345 百万円/年 程度	121~225 百万円/年 程度	155~380 百万円/年 程度	104~254 百万円/年 程度	-
目的	地域経済振興・魅力創出による人口流出の抑制 現在の富山県の空白ゾーン				県民のスポーツ振興・健康寿命の延伸		
	写真出所：※1豊田スタジアムHP ※2武蔵野の森スポーツプラザHP ※3セキスイハイムスーパーアリーナHP ※4兵庫県立武道館HP ※5三菱総研撮影						

15

3 : 仮説設定した各施設パターンの評価

評価④：事業目的の達成

- スタジアム：サッカーJ3の公式戦、その他アマチュアスポーツにより、年間31万人程度の集客が期待される。
- アリーナ：コンサート（1万人・8千人規模の場合）及びプロスポーツ利用等による集客が期待される。
- 武道館：期待される利用者は、県内大会や一般利用による、県民利用に限られる。



想定入込客数

31万人/年 40万人/年 32万人/年 27万人/年 11万人/年 6万人/年 -

※興行利用（コンサート・プロスポーツ）の場合、最大収容人数の80%の観客が来場するものと想定。
 ※アマチュアスポーツ（県大会）の場合、選手及び関係者が1,000人が来場するものと想定。その他一般利用日には1日あたり100人が来場するものと想定。

目的

地域経済振興・魅力創出による人口流出の抑制

県民のスポーツ振興・健康寿命の延伸

現在の富山県の空白ゾーン 写真出所：※1豊田スタジアムHP ※2武蔵野の森スポーツプラザHP ※3セキスイハイムスーパーアリーナHP
 ※4兵庫県立武道館HP ※5三菱総研撮影

4 : 富山県が目指すべき全天候型体育文化施設の提案

(1) 全天候型スタジアム（最大収容人数 20,000人規模）

- 全天候型スタジアム（最大収容人数 20,000人規模）
 - 延床面積 50,000㎡程度
 - 競技面面積 約 10,000㎡
 - 観客席面積 約 20,000㎡（固定席20,000席）
 - 日ピー・ホワイト 約 8,000㎡
 - 敷地面積 38,000㎡程度
 - 建築面積 約 30,000㎡
 - 観客用駐車場なし
 - 建設費 210～250億円程度
 - 事業収支
 - 期待運営収入 26百万円/年程度
 - 運営費用 500～1,650百万円/年程度
 - 収支差額 474～1,624百万円/年程度
 - 想定入込客数 31万人/年

提案施設の整備により期待される将来像

- 富山駅からの利便性が高い地域に立地することで県内のみならず広域からの集客が期待される。
- カターレ富山が1・J2に昇格した際には飛躍的に公式戦数が増加し、交流人口・関係人口の更なる増加と合わせて、地域経済の活性化への寄与が期待される。

実現にあたっての課題

- 富山駅周辺において大規模な敷地を確保する必要があるが、現状では見あたらない。
- 最も重要な集客コンテンツはリーグ公式戦であり、事業の成否はカターレ富山の成績に大きく影響される。

4 : 富山県が目指すべき全天候型体育文化施設の提案

(2) アリーナ (最大収容人数 10,000人規模)

■ アリーナ (最大収容人数 10,000人規模)

- | | |
|-------------------------------|-----------------------|
| ■ 延床面積 25,000㎡程度 | ■ 建設費 190～210億円程度 |
| ■ アリーナ面積 約 3,000㎡ (可動席2,000席) | ■ 事業収支 |
| ■ 観客席面積 約 7,000㎡ (固定席8,000席) | ■ 期待運営収入 100百万円/年程度 |
| ■ ロビー・ホワイエ 約 3,000㎡ | ■ 運営費用 325～525百万円/年程度 |
| ■ 敷地面積 20,000㎡程度 | ■ 収支差額 225～425百万円/年程度 |
| ■ 建築面積 約 16,000㎡ | ■ 想定入込客数 40万人/年 |
| ■ 観客用駐車場なし | |

提案施設の整備により期待される将来像

- 富山駅からの利便性が高い地域に立地することで県内のみならず広域からの集客が期待される。
- 世界的・全国的なスポーツイベントや著名アーティストのコンサート等、日常的にスポーツや文化に触れられる機会が創出される。

実現にあたっての課題

- 富山駅周辺において大規模な敷地を確保する必要がある。
- 10,000人規模を埋められるスポーツ・コンサートは全国的にも限られており、継続的に富山に誘致していくことが求められる。
- プロチーム (バスケットボール・バレーボール等) の既存ホームアリーナとの役割分担が必要である。

18

4 : 富山県が目指すべき全天候型体育文化施設の提案

(3) アリーナ (最大収容人数 8,000人規模)

■ アリーナ (最大収容人数 8,000人規模)

- | | |
|-------------------------------|-----------------------|
| ■ 延床面積 20,000㎡程度 | ■ 建設費 100～170億円程度 |
| ■ アリーナ面積 約 3,000㎡ (可動席2,000席) | ■ 事業収支 |
| ■ 観客席面積 約 5,000㎡ (固定席6,000席) | ■ 期待運営収入 75百万円/年程度 |
| ■ ロビー・ホワイエ 約 3,000㎡ | ■ 運営費用 260～420百万円/年程度 |
| ■ 敷地面積 13,000㎡程度 | ■ 収支差額 185～345百万円/年程度 |
| ■ 建築面積 約11,000㎡ | ■ 想定入込客数 32万人/年 |
| ■ 観客用駐車場なし | |

提案施設の整備により期待される将来像

- 富山駅からの利便性が高い地域に立地することで県内のみならず広域からの集客が期待される。
- 国内プロスポーツの公式戦や著名アーティストのコンサート等、日常的にスポーツや文化に触れられる機会が創出される。

実現にあたっての課題

- 富山駅周辺において大規模な敷地を確保する必要がある。
- 8,000人規模を埋められるスポーツ・コンサートは全国的にも限られており、継続的に富山に誘致していくことが求められる。
- プロチーム (バスケットボール・バレーボール等) の既存ホームアリーナとの役割分担が必要である。

19

4 : 富山県が目指すべき全天候型体育文化施設の提案

(4) アリーナ (最大収容人数 5,000人規模)

- アリーナ (最大収容人数 5,000人規模)
 - 延床面積 13,000㎡程度
 - アリーナ面積 約 3,000㎡ (可動席2,000席)
 - 観客席面積 約 3,000㎡ (固定席3,000席)
 - ロビー・ホワイエ 約 2,000㎡
 - 敷地面積 10,000㎡程度
 - 建築面積 約 8,000㎡
 - 観客用駐車場なし
- 建設費 60~100億円程度
- 事業収支
 - 期待運営収入 48百万円/年程度
 - 運営費用 169~273百万円/年程度
 - 収支差額 121~225百万円/年程度
- 想定入込客数 27万人/年

提案施設の整備により期待される将来像

- 富山駅からの利便性が高い地域に立地することで県内のみならず広域からの集客が期待される。
- 国内プロスポーツの公式戦等、日常的にスポーツに触れられる機会が創出される。
- 多目的に利用できるアリーナとすることで、多様な世代が集う交流拠点としても期待される。

実現にあたっての課題

- 富山駅周辺において大規模な敷地を確保する必要がある。
- プロチーム (バスケットボール・バレーボール等) の既存ホームアリーナとの役割分担が必要である。
- 富山駅近隣に立地し、施設規模が重複している富山市総合体育館と差別化を図る必要があり、新たな活用方法を提示していくことが求められる。

20

4 : 富山県が目指すべき全天候型体育文化施設の提案

(5) 武道館 (最大収容人数 3,000人規模)

- 武道館 (最大収容人数 3,000人規模)
 - 延床面積 15,000㎡程度
 - アリーナ面積 約 1,500㎡ (柔道6面)
 - 観客席面積 約 3,000㎡ (固定席3,000席)
 - 柔道場・剣道場 約 2,000㎡ (柔道4面・剣道4面)
 - 敷地面積 13,000㎡程度
 - 建築面積 約 10,000㎡
 - 観客用駐車場なし
- 建設費 120~140億円程度
- 事業収支
 - 期待運営収入 10百万円/年程度
 - 運営費用 165~390百万円/年程度
 - 収支差額 155~380百万円/年程度
- 想定入込客数 11万人/年

提案施設の整備により期待される将来像

- 県内における武道の聖地として、武道に関連する競技力向上に寄与することが期待される。
- バスケットボール・バレーボール等の球技に利用できるアリーナを整備することで、県民のスポーツ振興や健康寿命の延伸に寄与する。

実現にあたっての課題

- 県民利用を主眼とした施設であることから、駐車場を確保する必要性が高まるため、大規模な敷地が必要となる。
- 県内の既存のスポーツ施設 (富山武道館、高岡武道館や県総合体育センター等) と機能が重複しているため、実現にあたっては既存施設との統廃合等も合わせて検討することが求められる。

21

4 : 富山県が目指すべき全天候型体育文化施設の提案

(6) 武道館 (最大収容人数 1,000人規模)

■ 武道館 (最大収容人数 1,000人規模)

- | | |
|--------------------------------|-----------------------|
| ■ 延床面積 10,000㎡程度 | ■ 建設費 60~70億円程度 |
| ■ アリーナ面積 約 1,200㎡ (柔道4面) | ■ 事業収支 |
| ■ 観客席面積 約 1,000㎡ (固定席1,000席) | ■ 期待運営収入 6百万円/年程度 |
| ■ 柔道場・剣道場 約 2,000㎡ (柔道4面・剣道4面) | ■ 運営費用 110~260百万円/年程度 |
| ■ 敷地面積 10,000㎡程度 | ■ 収支差額 104~254百万円/年程度 |
| ■ 建築面積 約 8,000㎡ | ■ 想定入込客数 6万人/年 |
| ■ 観客用駐車場なし | |

提案施設の整備により期待される将来像

- 県内における武道の聖地として、武道に関連する競技力向上に寄与することが期待される。
- バスケットボール・バレーボール等の球技に利用できるアリーナを整備することで、県民のスポーツ振興や健康寿命の延伸に寄与する。

実現にあたっての課題

- 県民利用を主眼とした施設であることから、駐車場を確保する必要性が高まるため、大規模な敷地が必要となる。
- 県内の既存のスポーツ施設 (富山武道館、高岡武道館や県総合体育センター等) と機能が重複しているため、実現にあたっては既存施設との統廃合等も合わせて検討することが求められる。

(2)意見交換

○主な意見

- ・富山県が新たに全天候型体育文化施設を整備するならば、富山駅から徒歩圏内に立地させなければ意味がない。
- ・施設の目的をどのように定めるのかが大事ではないか。
- ・するスポーツだけではなく、みるスポーツ、応援するスポーツの機運も、一体感を高めていくためにどのぐらい潜在的なニーズがあるのか。各世代の意識のような部分について教えていただけるとありがたい。
- ・エンターテインメントやスポーツの誘致が果たして富山県にとって魅力になるのか、少し違和感がある。
- ・冬場に雪が降ったりするので体育館は結構あるが、スポーツの娯楽性という面では富山県では少し欠けていると思う。
- ・若者たちからはアーティストのコンサートが富山にはなかなか来なくて、石川や福井に行かなければならないという話も小耳に挟む。その点では、コンサートができるような施設を整えられることが必要だと思う。
- ・採算性も大事だが、もっと派生的なことも全部考えた上でいろいろ判断していかないといけないと思う。施設の費用対効果だけでなく地域活性化のために広い視点で検討すべき。
- ・豪華なものはいくらでもあるが、何か工夫をして整備費を抑制できないか。
- ・オリンピックではないが、スポーツの持つ力、スポーツの可能性をいかに県の活性化に生かしていけるかという面では、こういった箱物をどのように整備して、その中身をどのようにしていくかという議論を十分にすることが必要。もう少しこの議論は重ねて、必要なかどうか、どのような規模なのかということ検討した方が良いのではないか。
- ・多額の投資を行う施設なので、多くの県民が納得できるよう、もう少し詳細な調査や丁寧な議論が必要。

【まとめ】

三菱総合研究所の『全天候型体育文化施設等整備・運営に係る基礎調査』では、「地域経済振興や魅力創出による人口流出の抑制という目的からすれば、大規模スポーツ大会やコンサートの開催誘致の可能性、事業収支や建設費負担を考慮すると8000人規模アリーナが検討の俎上にある」、また、「県民利用を主眼とした武道館は、既存の富山武道館や高岡武道館などと機能が重複するので、実現にあたって既存施設の統廃合も併せて検討することが必要。」との報告があり、次回検討会では、委員から発言があった①施設の目的はどのように定めるか、②県民意識調査の世代別分析、③施設整備の効果として施設単体の費用対効果だけでなく地域全体でみた場合はどうか、④施設規模について、もう少し工夫することができるのではないかの4つの論点について、議論を深める。

第3回 健康・スポーツ環境充実検討会(令和元年5月9日)

■ 概要

(1) 第2回検討会での議論を踏まえた論点

論点1 施設の目的

- ・アリーナは、雨天や冬季の健康増進やスポーツを楽しむ施設であり、大規模なコンサートの開催も可能な施設、街の活性化にもつながる。
- ・大規模アリーナが、集客面で賑わいが限定的で維持管理費がかかるなど運営上の課題が大きいと判断される場合には、武道館を整備することとし、多目的に利用できる構造となるよう配慮してはどうか。

論点2 全天候型体育文化施設整備検討の必要性(県民意識調査の世代別分析)

- ・若い世代で全天候型体育文化施設の整備に前向きな意見が多い。
- また、比較的年齢の高い世代で、老朽化した施設やあまり利用されていない施設の廃止を一緒に考えるきっかけになるとの回答が多かった。

論点3 施設整備の効果

- ・検討の俎上にあるとされた8000人規模アリーナで、大規模コンサート年間10回開催、プロスポーツなどのイベント開催40回という前提条件の元で試算した場合、経済波及効果は年間約32億円。

論点4 施設規模の再考(整備費、運営収支)

- ・8000人規模アリーナで、競技大会開催時に必要なサブアリーナを設けないなどエンターテイメントに特化し面積縮小した場合、建設費100～170億円を80～130億円で縮減できる可能性がある。(H30 時点での試算)

(ただし、サブアリーナを設けない場合には、全国大会開催時に運営に支障をきたす恐れが高いので現実的には厳しい。)

論点1 施設の目的

■ ①施設の目的をどのように定めるのが大事。

○長期ビジョン、総合計画などでコンサートが開催できる全天候型多目的スポーツ施設を求める声がある。一方で、財政状況や少子高齢化・人口減少時代に必要性を疑問視する声もあり。

○県民意識調査を実施 (H29年12月)

・前向きに検討すべき (17.1%)、条件付にて検討 (52.6%)、不必要 (25.4%)
(⇒詳細分析は、論点2にて)

○全天候型多目的スポーツ施設整備の可能性について、検討いただいている。

○従来の体育館であれば、スポーツ競技の試合や練習の場として活用。

規模の大きいアリーナでは、大規模なライブコンサートなどが開催されるようになり、国でも(スタジアム・アリーナ改革ガイドブック)街の活性化の中核施設としての役割に期待されている。

⇒第2回検討会の議論を踏まえ、(実現可能性の検討の俎上にある)8000人収容規模のアリーナと武道館の整備の可能性について、議論を深めていただきたい。

(例えば、)

・特に、アリーナは、①雨天・冬季の健康増進やスポーツを楽しむ施設であり、②大規模なコンサートも開催できる施設である。同時に、街の活性化につながる。

(大型の投資であれば、目的を限定するのではなく複合化し効果を高める工夫が必要)

・大規模アリーナは、集客面で賑わいが限定的で維持管理費がかかるなど運営上の課題が大きいと判断される場合には、武道館を整備することとし、多目的に利用できる構造となるよう配慮してはどうか。

...などご意見・ご提言をいただきたい。

論点2 全天候型体育文化施設整備検討の必要性（世代別分析）

■ ②するスポーツだけでなく、みるスポーツ、応援するスポーツの機運も、一体感を高めていくためにどのぐらい潜在的なニーズがあるのか。各世代の意識のような部分について教えていただけるとありがたい。

■健康と運動・スポーツに関する県民意識調査

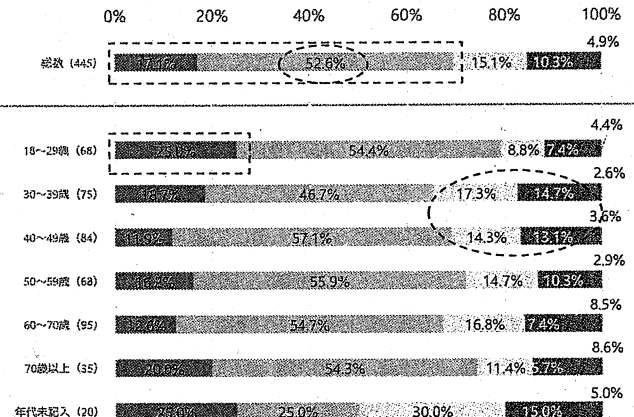
- ・調査期間：平成29年12月1日～12月31日
- ・調査方法：満年齢18歳以上の富山県全域の1,200人を住民基本台帳から無作為抽出
- ・回答数：445人（37.1%＝445人／1,200人）

問10 スポーツやコンサートなどの文化イベントなど多目的に利用できる全天候型のアリーナや屋内グラウンドの整備（他県の事例では150～200億円程度の建設費を要している）について、県の「経済文化長期ビジョン」などで、スポーツ振興や賑わいのあるまちづくり、若者の県内への移住・定着などのため検討すべきとの提言があります。あなたは、その必要性について、どう考えますか。あなたの考えに最も近いものを次の中から1つ選んで○印をつけてください。

- 1 せひ必要だと考えるので、前向きに検討を進めるべき
- 2 必要だと考えるが、既存施設の統廃合など、県の行財政状況等を十分考慮したうえで検討を進めたほうがよい
- 3 現在の本県の人口規模や現在の施設の整備状況を見ると必要性を感じない
- 4 県政の優先課題が他にも多くあることから、必要性を感じない
- 5 どちらともいえない

⇒ 問11
問12へ
⇒ 問13へ
⇒ 問14へ

多目的な全天候型施設整備の必要性



1. せひ必要だと考えるので、前向きに検討を進めるべき
2. 必要だと考えるが、既存施設の統廃合など、県の行財政状況等を十分考慮したうえで検討を進めたほうがよい
3. 現在の本県の人口規模や現在の施設の整備状況を見ると必要性を感じない
4. 県政の優先課題が他にも多くあることから、必要性を感じない
5. どちらともいえない (未記入含む)

○必要とする意見は合わせて69.7%であるが、「2.必要だと考えるが、既存施設の統廃合など、県の行財政状況等を十分考慮したうえで検討を進めたほうがよい」が52.6%と一番回答割合が多い。

○世代別に見ると「1.せひ必要だと考えるので、前向きに検討を進めるべき」と回答した割合は、18～29歳で25.0%と一番多い。
○「3.現在の本県の人口規模や現在の施設の整備状況を見ると必要性を感じない」と「4.県政の優先課題が他にも多くあることから、必要性を感じない」と必要性を感じていない世代は、30、40歳代がそれぞれ32.0%、27.4%と高くなっている。

2

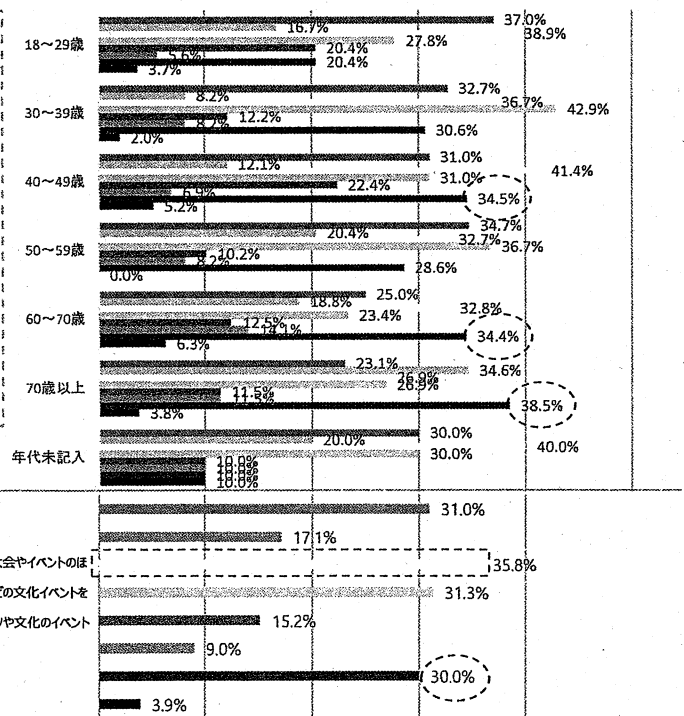
論点2 全天候型体育文化施設整備検討の必要性（世代別分析）

<問10で1または2を選択された方にお尋ねします>

問11 あなたが問10で「検討を進めるべき」または「検討を進めたほうがよい」としたのは、なぜですか。あなたの考えに近いものを次の中から2つ以内選んで○印をつけてください。

- 1 スポーツをする人、観る人、支える人が増え、スポーツが盛んになる
- 2 文化活動を自ら行う人、観る人、支える人が増え、文化活動が盛んになる
- 3 近県にも全天候型の大規模なアリーナや屋内グラウンドが整備されつつあり、本県にも降雪のある冬場でも大規模なスポーツ大会やイベントのほか、コンサートなどの文化イベントが開催できる大きな施設が必要
- 4 富山県はものづくり産業が盛んで、教育や医療の水準も高いが、若者や女性などが楽しめる大規模なスポーツ大会やコンサートなどの文化イベントを開催できる全天候型の施設がないので、新しい施設が必要
- 5 新幹線開業もあって、外国人観光客の増加が見込まれる中、県内外だけでなく海外からも訪れてもらえるような多彩なスポーツや文化のイベントを開催することができるようになり、地域の活性化が図られる
- 6 東京五輪の開催に向けてスポーツに対する機運が盛り上がり、スポーツ・文化の振興は地方創生に大いに寄与する
- 7 県内の老朽化した施設やあまり利用されていない施設の廃止と一緒に考えるきっかけになる
- 8 その他 ()

検討必要性の考え方(2つまで回答)



○検討の必要性について、「3.近県にも全天候型の大規模なアリーナや屋内グラウンドが整備されつつあり、本県にも降雪のある冬場でも大規模なスポーツ大会やイベントのほか、コンサートなどの文化イベントが開催できる大きな施設が必要」が35.8%で一番多く、「7.県内の老朽化した施設やあまり利用されていない施設の廃止と一緒に考えるきっかけになる」を回答した割合は30.0%で、世代別では、40代、60代、70代が多い。

3

論点2 全天候型体育文化施設整備検討の必要性（世代別分析）

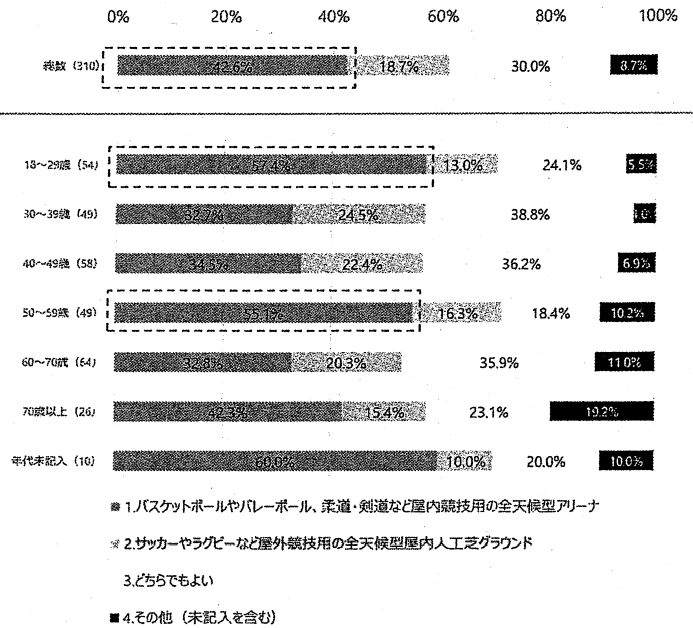
<問10で1または2を選択された方にお尋ねします>

問12 あなたは、今後、スポーツやコンサートなどの文化イベントなど多目的に利用できる全天候型のアリーナや屋内グラウンドの整備を進めるとすれば、次のいずれの施設を整備したほうがよいと考えますか。次の中から1つ選んで○印をつけてください。

- 1 バスケットボールやバレーボール、柔道・剣道など屋内競技用の全天候型アリーナ
- 2 サッカーやラグビーなど屋外競技用の全天候型屋内人工芝グラウンド（※）
- 3 どちらでもよい
- 4 その他（ ）

※現行規程では、人工芝でJリーグの公式戦は開催できない

必要と考える施設



○必要と考える施設について、「1.バスケットボールやバレーボール、柔道・剣道など屋内競技用の全天候型アリーナ」が42.6%で一番多い。世代別に見ると、18~29歳が57.4%、50歳代が55.1%と回答割合が多い。

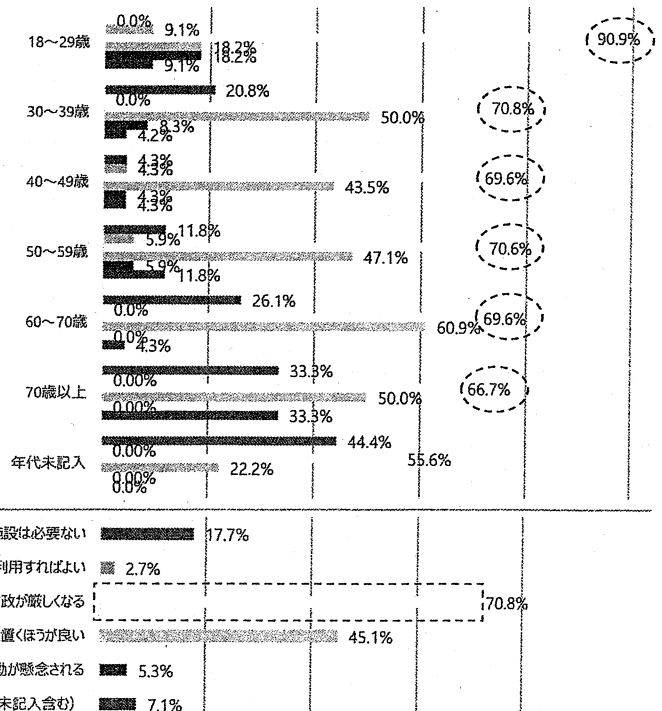
論点2 全天候型体育文化施設整備検討の必要性（世代別分析）

<問10で3または4を選択された方にお尋ねします>

問13 あなたが問10で「必要性を感じない」としたのは、なぜですか。あなたの考えに近いものを次の中から2つ以内選んで○印をつけてください。

- 1 現状の県内施設で充足しており、大規模施設は必要ない
- 2 北陸新幹線の開通により飛躍的に交通アクセスの利便性が向上したため、首都圏や近隣の県外の施設を利用すればよい
- 3 大規模施設はあったほうがよいが、人口減少が見込まれる中、多額の建設費や維持管理費がかかる県財政が厳しくなる
- 4 施設を作るより、他の施策（指導者の育成、県民の体力づくり、スポーツ・文化の情報提供、スポーツ・文化イベントの充実など）に重点を置くほうがよい
- 5 大会やイベントの日は施設周辺の交通渋滞や騒音、振動が懸念される
- 6 その他（ ）

検討の必要性を感じない理由（2つまで回答）



理由	割合
1.現状の県内施設で充足しており、大規模施設は必要ない	17.7%
2.北陸新幹線の開通により飛躍的に交通アクセスの利便性が向上したため、首都圏や近隣の県外の施設を利用すればよい	2.7%
3.大規模施設はあったほうがよいが、人口減少が見込まれる中、多額の建設費や維持管理費がかかる県財政が厳しくなる	70.8%
4.施設を作るより、他の施策に重点を置くほうがよい	45.1%
5.大会やイベントの日は施設周辺の交通渋滞や騒音、振動が懸念される	5.3%
6.その他（未記入含む）	7.1%

○必要性を感じないと回答した方は回答者445人のうち113人ですが、検討の必要性を感じない理由として、「3.大規模施設はあったほうがよいが、人口減少が見込まれる中、多額の建設費や維持管理費がかかる県財政が厳しくなる」と回答する割合が70.8%と一番多い。世代別でみても全世代で一番多い。

論点3 施設整備の効果

- ③エンターテインメントやスポーツの誘致が果たして富山県にとって魅力になるのか、少し違和感がある。
- ④富山は住み心地は良いが、魅力的で面白い所が考えないと出てこない。
- ⑤スポーツの娯楽性という面では富山県では少し欠けている。
- ⑥コンサートができるような施設を整えられることが必要。
- ⑦施設の費用対効果だけでなく地域活性化のために広い視点で検討すべき。

○効果を数字であらわすため、MICE開催による地域経済波及効果測定モデル（国土交通省観光庁）を用いて、経済波及効果を試算する。

○試算の前提条件として、

前回、三菱総合研究所(株)報告では、
「地域経済振興や魅力創出による人口流出の抑制という目的からすれば、大規模スポーツ大会やコンサートの開催誘致の可能性、事業収支や建設費負担を考慮すると8000人規模アリーナが検討の俎上にある。」

○県外からの来場が多く見込まれる大型イベント（入場料あり）について算定対象とし、

- ・全天候型体育文化施設を8,000人収容アリーナ（主要な交通機関の結節点から徒歩圏内に立地）
 - ・大規模なコンサートは、5公演×2日間（土・日曜日の公演）開催（延べ10日間）
 - ・プロスポーツなどの大きなイベントが40日間開催
 - ・集客数6,400人/回（8,000席のうち8割の集客）
 - ・宿泊数640人（来場者6,400人のうち1割が宿泊）にて設定した。
- （なお、県予選大会（入場料なし）などの県民利用催事については算定対象外とした）

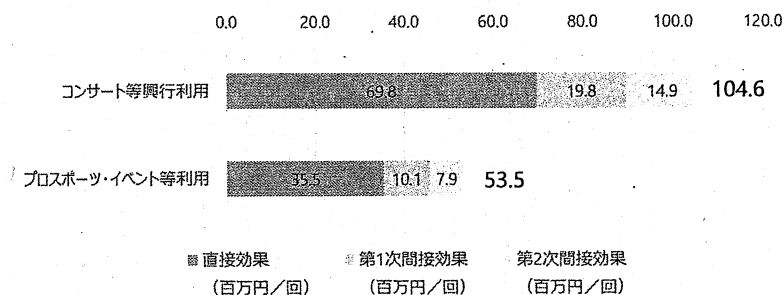
（参考）TGC TOYAMA2018
 ・県外来場者 28.4%
 ・県外来場者のうち県内宿泊者 36.6%
 ⇒来場者のうち10.4%の方が宿泊
 出所：TGC来場者アンケートより

論点3 施設整備の効果

【経済波及効果】

- 直接効果：イベントの主催者（興行主）及び参加者（来場者）による、富山県内での総消費額（飲食業、宿泊業、会場設営業、イベント運営業など）
- 第1次間接効果：直接効果にともない周辺産業から生み出される需要の合計（食品加工、商業、運輸、機材製作など）
- 第2次間接効果：直接効果及び第1次間接効果により増加した雇用者所得による、新たな消費需要の合計

イベント開催による経済波及効果（回）

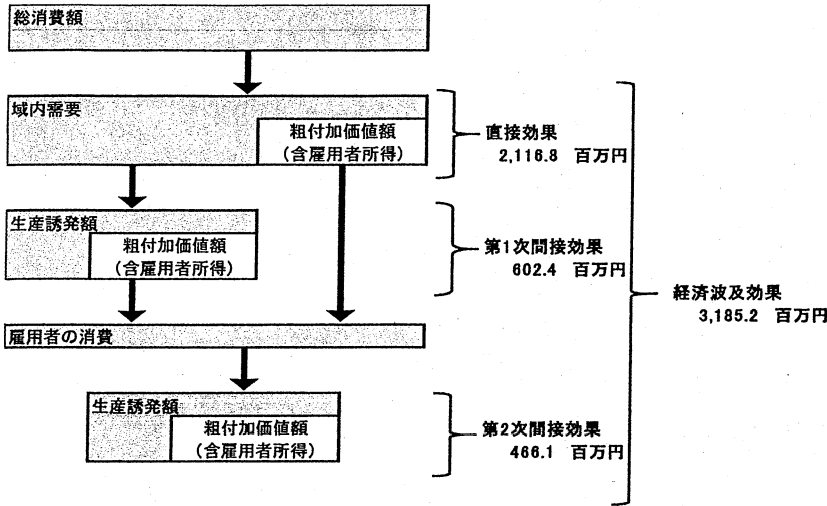


アリーナ利用用途	直接効果 (百万円/回)	第1次間接効果 (百万円/回)	第2次間接効果 (百万円/回)	経済波及効果 (百万円/回)
コンサート等興行利用	69.8	19.8	14.9	104.6
プロスポーツ・イベント等利用	35.5	10.1	7.9	53.5

論点3 施設整備の効果

イベント開催による経済波及効果

■ MICE開催による地域経済波及効果測定モデル（国土交通省観光庁）により、アリーナでのイベント開催に伴う富山県の経済波及効果を試算した結果、年間約32億円と試算される。



- コンサート
@104.6百万円/回×10回
=1,045.6百万円
- プロスポーツなど大規模イベント
@53.5百万円/回×40回
=2,139.6百万円

アリーナ利用用途	直接効果 (百万円/年)	第1次間接効果 (百万円/年)	第2次間接効果 (百万円/年)	経済波及効果 (百万円/年)
コンサート等興行利用 (10件/年)	698.0	198.2	149.4	1,045.6
プロスポーツ・イベント等利用 (40件/年)	1,418.8	404.4	316.8	2,139.6
合計	2,116.8	602.4	466.1	3,185.2

論点3 施設整備の効果

主催者が施設を利用する際に施設側に支払う施設使用料として
 ・コンサート（入場料あり）など興行として利用の場合、興行単価
 ・スポーツ（入場料あり）などの利用の場合、有料単価
 ・一般県民利用（入場料なし）の場合、一般料金 など
 利用目的に応じて料金設定している施設が多い（なお、公共施設の場合、減免している例もあり）

活用想定イメージ（案）

スポーツなど（入場料あり）

- バasketボール（Bリーグ、県総合体育センター開催2回分）
- バレーボール（ワールドカップバレー）
- ハンドボール
- バドミントン
- テニス（デビスカップ）
- 大相撲巡業、ボクシング、プロレスリング
- アイススケートショー
- モトクロス、ビッグフット等によるモータースポーツイベント
- BMXフリースタイル
- eスポーツ

文化イベントなど（入場料あり）

- ライブなど大規模コンサート
- ファッションショーイベント
- 舞台演劇、お笑いステージなど
- サーカス
- アイドル握手会
- アニオタ・アニソン・コスプレ 関連イベント
- フリーマーケット

スポーツなど（入場料なし）

- 全国大会・地区大会・県予選など
- 体操、トランポリン、ダンス、バトントリングコンテストなど
- フットサル、ビーチバレーボール
- 柔道・剣道・空手・少林寺拳法など武道、レスリング
- ゲートボール、ドッチボール、ポッチャ、キンボール、カローリングなどのニュースポーツ、大なわとび大会 etc
- 県総合体育センターで開催されている高校の県予選会などをアリーナで開催することで、他の競技の練習スペースが確保できる。
- 富山マラソン エキスポ会場（マラソンのエントリーには別途参加料が必要）

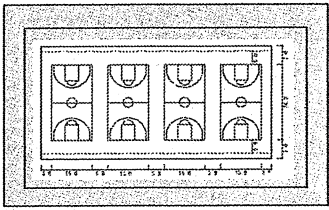
文化イベントなど（入場料なし）

- 就活、合同企業説明会 など
- 漢字検定など資格試験会場
- 大学の入学式・卒業式
- 全国組織の大会・研修会・集会などMICE
- 書初めなどの文化活動
- 企業、幼稚園などの運動会
- "婚活大パーティー、大ビアガーデン、クリスマスイベント、新年カウントダウンパーティー など"
- スポーツ関連展示会（立山登山などのアウトドア、湾岸サイクリングなどの自転車）
- 映画・ドラマ・CMなどの撮影会場
- ペットの競技大会（ドッグラン的な）、わんにゃんドーム

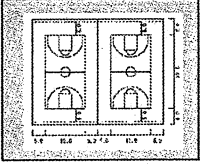
論点4 施設規模の再考

■ ⑧豪華なものはいくらでもあるが、何か工夫をして整備費を抑制できないのか。
(例えばゼビオアリーナは30億円できている。) →次ページ参照

第2回検討会において提案された
8,000人規模アリーナ



諸室
(事務室、会議室、
倉庫、機械室など)



ロビー・ホワイエ

県内にはない
「みる」スポーツに重点
エンターテインメントに特化

メインアリーナ
3,000㎡→2,000㎡

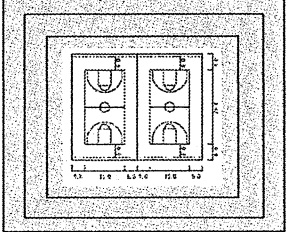
観客席
5,000㎡

ロビー・ホワイエ
3,000㎡

諸室
7,000㎡→5,000㎡

サブアリーナ
2,000㎡→0㎡

「見る」スポーツに重点を置いたアリーナ
(素案)
8,000人規模



諸室
(事務室、会議室、
倉庫、機械室など)

ロビー・ホワイエ

延床面積 20,000㎡程度
敷地面積 13,000㎡程度
建設費 100~170億円程度 (503~853千円/㎡×20,000㎡)

延床面積 15,000㎡程度
敷地面積 10,000㎡程度
建設費 80~130億円程度 (503~853千円/㎡×15,000㎡)

○メインアリーナ (▲1,000㎡)
バスケットボールコート4面→2面
・「みる」ためのセンターコートとして利用

○観客席 (変更なし)
座席数8,000人
・長辺が短くなった分、階数を増やす

○ロビー・ホワイエ (変更なし)
・8,000人収容の滞留スペースが必要

○事務室・会議室・倉庫・機械室などの諸室 (▲2,000㎡)
・必要な機能のみを確保しシンプルな施設として設計

○サブアリーナ (▲2,000㎡)
バスケットボールコート2面→なし
・サブアリーナは近隣の施設と連携

10

ゼビオアリーナ仙台

アリーナ類似施設事例

- 「楽しむ」スポーツを意識した多目的アリーナ面と最新鋭の映像装置の導入、興行主ニーズに合わせた施設設計。
- 施設自体をメディア化し、広告収入による収益性の向上をはかる。
- 地元スポーツチーム、地元マスコミ、コンサートプロモーター、広告代理店、照明運営会社など14社による有限責任事業組合が運営を担う「民設共営」型施設。

開設年	平成24年 (2012年)	○収容人員が最大6,000人であること ○延床面積が11,707㎡とコンパクトであること
交通アクセス	仙台駅からJR・地下鉄「長町駅」まで電車で約8分、JR・地下鉄「長町駅」より徒歩約5分	
敷地面積/延床面積	7,930㎡/11,707㎡	○メリハリのある投資 ・映像・音響システムに工夫 ・コンサート・イベント設営・撤去作業のしやすい コンクリート土間 (バスケットボール使用時には木床を敷設)
構造	RC造 地下1階、地上3階	
競技面	アリーナ面積 2,170㎡	○ローコスト建築 ・サブアリーナを設けない ・外壁はコンクリートの打ちっぴなしへ直接塗装 ・バックヤードはコンクリートの打ちっぴなし
最大収容人数	最大6,000人収容 (固定4,009席)	
その他諸室	V I Pルーム (10室) 出演者用楽屋、ロッカールーム、控室、救護室	○H23年当時の建設コストであり、震災復興やオリンピック需要で建設物価が高騰している。 (@約30億円×1.355⇒@約40.7億円)
利用用途 ①競技 ②興行等	①FIBA WORLD TOUR FINAL、日韓V.LEAGUEトップマッチ、bjリーグ戦、WOWOWボクシングダブル世界タイトルマッチ等 ②アイスショー・凱旋公演、FIFAワールドカッププレビューイング、ジャパンドローン・ナショナル、サラ・ブライマンコンサート等	
事業手法	民設民営	○イベントのない日 (年間4割程度) は完全閉館とし、スタッフはイベント誘致のための営業活動を行う。 (人件費や水光熱費の削減を図る)
低地所有/施設所有/運営者	仙台市/ゼビオ (株) /ゼビオアリーナ有限責任事業組合	
整備費	約30億円 (H23年当時)	○映像・音響システム操作のスタッフは配置せず。 (基本利用料金に含まれず主催者が別途発注)
運営支出	公表資料無 仙台市とゼビオ (株) で20年間の定期借地権契約。仙台市から固定資産税5年間相当額の補助を受けている。	
運営収入	公表資料無	○定期清掃なし (主催者が原状復旧清掃を行う)
年間一般利用者数	公表資料無	

論点4 施設規模の再考

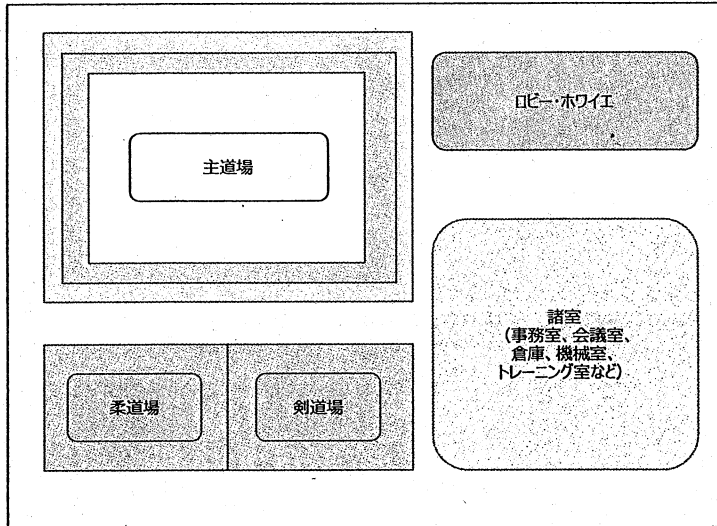
- 第2回検討会で提案された1,000人規模武道館について検討。
- 事業費は60～70億円を見込む。

■ 武道館（1,000人規模）

想定面積

武道館 イメージ・概念図

主道場 1,200㎡
観客席 1,000㎡
柔道場・剣道場 2,000㎡
ジョギングコース 1,000㎡
ロビー・ホワイエ 1,000㎡
諸室 3,800㎡



延床面積 10,000㎡程度
敷地面積 10,000㎡程度
建設費 60～70億円程度

※他の用途に供する場合

例えば、バスケットボール2面であれば、

- ・主道場2,000㎡の広さ
- ・さらに、バスケットゴールや卓球台などの備品だけでなくバックヤードも必要
- ・コンサートなどの利用も想定するのであれば、観客席のスペースだけでなく、梁に重量のある照明・音響機器を吊り下げることができるようあらかじめ建築の構造計算しておく必要がある。

延床面積、敷地面積、建設費が増加する可能性がある。

(2)意見交換

○主な意見

- ・ワクワク感を望む若い人には、アリーナは地域の活性化の中核施設という意味合いは十分ある。武道館を考えるのであれば、老朽化している既存の富山と高岡にある施設を統廃合して、しっかりとしたものを整備することを検討してもよいのではないか。
- ・新たな施設を整備する場合には、例えば富山駅周辺など県内各地から集まりやすい場所が望ましい。
- ・県民意識では必要だと考えますが、既存施設の統廃合など、県の行財政状況等を十分考慮した上で検討を進めた方がよいという意見が半数以上になっている。多くの県民が納得できるよう丁寧な議論が必要である。施設整備に当たっては、他事業の経済波及効果などとも比較した上で、いかに富山県のアリーナが有効かつ魅力的であるかをしっかりとアピールできなくてはならない。
- ・検討の俎上にあるとされた8000人規模アリーナでも、行政だけで整備する場合には、多額の公費を入れて整備したときの費用対効果を経済波及効果分析の年間32億円を見ても高いとまでは言えないことから、毎年の収支差額を多額の税金で補うことは、多くの県民の理解が得られないのではないか。球技やコンサートもできるような武道館ということであれば、武道館については機能不可欠なものでもあり、施設の更新や近代化、統廃合をするような検討をするきっかけになるのではないか。
- ・イベントもできるような多目的に使えるアリーナの要素も含めた武道館を造ったらいいのではないか。武道館の中にもサブアリーナのようなものがあってヨガ、太極拳などの軽運動ができるようなスペースを設けることで、働き盛りで日ごろの運動習慣も少ない世代を取り込み、幅広く利用していただけるようにしてはどうか。
- ・武道館については、武道競技だけではなく、多くの県民に親しまれるよう他のスポーツ競技や、稼働率向上のためにもイベントができるよう配慮できれば、整備の可能性があるのではないか。
- ・地域振興の観点から、県外からも人を呼び込めたり、若い方にとっての楽しみや夢のある施設という点を考慮すると、基本的にはイベント利用等、見るスポーツや文化的な施設に活用する方向が望ましいのではないか。
- ・もう少しコンパクトで、武道館もアリーナ的な機能を果たせるのであれば、全天候型であり全世代型という形で関わることができ、そこが行ってみたい目標になること、アクセスもいいことという条件がある程度満たされるのであれば、古くなったようなところで似たようなものをスクラップ・アンド・ビルドのような形で整理統合して、いろいろな世代の方々が仲間、家族、チームで関われるような施設になればよいのではないか。

- ・見るスポーツに対する一般の人たちの関心度はどんどん高まっている。規模的にはそんなに大きなものは非常に難しいと思う。イベント的なものを重点にした 8,000 人規模の多目的施設があった方がいいと思う。
- ・富山、高岡両武道館が非常に手狭であり、利用規模を拡大するためにも武道館を建設していただきたい。武道だけでなく他の屋内競技の全国大会も開催できる 4,000 人収容の主道場と日ごろの稽古場となる副道場を設けていただきたい(剣道の場合、滑る板張り構造など理解いただきたい)。
- ・武道場になった場合についても、主道場はやはり多目的に使えるようなものにしていただくと経済効果的にも良いのではないかと。老朽化した施設の統廃合や、利用されていない施設をどうするかということも含めて検討していただければと思う。
- ・武道館のイメージはちょっと固定的な考え方がある。富山県のただの武道館ではなく、その名称によって武道館のイメージの既成概念を壊すようなものをぜひ考えていただけないか。
- ・財政的にも難しいと思うので、小規模のものであれば武道館だという認識の下での武道館であり、県外から集客するような座席数が多いものではなく、富山県民が日常的に関われるランドマークとなるような施設が良いのではないかと。
- ・新たな武道館を整備する場合には、既存の富山武道館と高岡武道館の統廃合を検討したうえで、華美な施設ではなく、利用者に配慮され多目的にも活用できる機能的な施設となるよう留意していただきたい。

【まとめ】

- ・検討の俎上にあるとされた 8,000 人規模のアリーナでも、行政だけで整備する場合には、経済波及効果分析をみても効果が限られており、毎年の収支差額を多額の税金で補填することは、多くの県民の理解が得られないのではないかと。
- ・老朽化した機能設備も不足している武道館については、武道競技だけでなく、多くの県民に親しまれるよう他のスポーツ競技や、稼働率向上のためにもイベントができるよう配慮できれば、整備の可能性があるのではないかと。
- ・新たな武道館を整備する場合には、既存の富山武道館と高岡武道館の統廃合を検討したうえで、華美な施設ではなく、利用者に配慮され多目的にも活用できる機能的な施設となるよう留意していただきたい。
- ・次回の検討会では、一定の方向性をとりまとめる。

第4回 健康・スポーツ環境充実検討会(令和元年8月27日)

■概要

(1)「全天候型体育文化施設整備のあり方」(案)について

(2)意見交換

○主な意見

- ・第1回から第3回まで、検討してきたことをうまくまとめている。当初 8,000 人規模の地域を活性化するようなアリーナは財政的、管理運営上問題があるということだった。提案のあった検討会のまとめとして、武道館が喫緊の課題として整備しなければならないのであれば、県民のスポーツ場として寄与する多目的な施設、武道もできる施設を建設してもらいたい。それと同時に、現在、問題を抱えている既存の富山武道館や高岡武道館のあり方、統廃合も含めて考えていかないと同じような施設をいくつもつくるのは得策ではないと考えている。
- ・武道館が作られるということで良いと思う。ただ、年々、(武道関係の)生徒や一般の人も減少している。施設が立派になったが、活用されずに収支が悪いと県に負担をかけるのではと心配もするが、武道を盛り上げていくためにも誰がみてもひけをとらないような武道館でなければならないと思う。全天候型体育文化施設整備の検討で、武道館が整備されるべきだと考えるし、また多目的に利用できる武道館整備であれば大方の方に理解いただけると思う。
- ・県民のみなさんに愛される、気軽に利用いただける施設と考えると、全国レベルの競技会もできるし地域の競技もできる、また、応援も気軽に行ける。また、ウィークデイは、自分自身の健康づくりの施設としても活用できるというような、多目的な考え方が必要かと思う。富山武道館や高岡武道館を統廃合して、武道館機能を有する多目的な施設を作るのが近いところなのかと思う。主道場のほかに剣道場3面、武道場3面、ジョギングコース、トレーニング室も設けるのであれば、県民が普段、気軽に利用できるような施設であってほしい。
- ・富山県のスポーツもかなり振興してきており、馬場雄大選手だけでなく八村選手、朝乃山関など文武両道が認識できる県になってきた。その中で、底上げしていくためには幅広く県民のみなさんが活用できるような、アクセスも良く、先ほど取りまとめいただいたような条件がある程度満たされていくような施設、建設費やメンテナンス費用とか、今後永く愛されていく施設と考えた時には、県のいろいろな目的にあったものが作られていくことが、永く愛されて利用されると思う。意識調査もされたので、若者が夢を持ちつつ、広い世代にも愛されて、世代間の交流もできるような、またいろいろなスポーツ種目の理解も深まるような施設になっていけば良いのかなという点でまとめられた案には、これまでの意見をまとめて整理されたと思っている。利用料金については、費用対効果をしっかりと考えつつ、等々も県民が日常的に使いやすいような施設ができればありがたいと思っている。
- ・多角的にいろいろな調査を進めて整理をいただきましたことに感謝する。内容に関しては、重要な住民の意見、必要だけれども慎重にという意見、それから統廃合を検討して施設として必要であるという両面を織り込んだバランスのとれた内容になっていると考える。ここまで丁

寧に議論をしてきたので、今後の計画を進める過程でも、適宜情報を開示してほしい。より利用者が使いやすくなるように、住民や利用者の意見を聞いて、より実現性の高い計画として進めていただきたい。

- ・調査結果や検討会の議論を踏まえ、富山と高岡の両武道館の老朽化を考えると新しい武道館の整備の必要性は高いと考えている。現在の富山武道館と高岡武道館も駅から近いところにあり、公共交通機関からアクセスの良い場所である。子供たちの県内の大会を開催すると保護者のみなさんも来場されることから、アクセスの良い場所であっても一定程度の駐車場が必要だと思われる。本提案は良いと感じている。
- ・全天候型体育文化施設は、県民の健康増進やスポーツの振興を通じて地域の活性化に大きく寄与するものと考えているが、具体的には、スポーツやイベントなどにも活用できる多目的な武道館も選択肢の一つとして考えられる。その際、重視すべきことは、①ある特定のスポーツだけでなく、より多くの県民や来県者に利用されるような施設構成や立地であることが大切であること、②経年劣化状態や維持管理コストといった、現存の体育文化施設の現状を踏まえたうえで、新しい施設にどんな機能と役割を持たせるのか明確にすることも必要ではないか、③多額の建設整備費やランニングコストもかかることから、県の財政面に十分配慮すると同時に、特に公共構築物や道路、橋梁などといった他のインフラ整備とのバランスにも配慮して検討することが必要だと考える。
- ・経済合理性の観点から、既存の富山武道館と高岡武道館の統廃合を検討した上で、武道館機能を有する多目的施設を整備するとした検討の方向性は、首肯できる。そのうえで当然ながら、立地場所の検討に際しては、県外広域からの集客も視野に入れて、幾つかのプランを比較検討して欲しい。
- ・今後、これに基づき検討されると思うが、今までの議論を踏まえてほしい。特に県内の若い人に夢を与えることを念頭に置いて、国際的な大会の開催も視野におきながら、富山には八村選手が出ているので、八村選手が間近でみられるような施設づくりも、どの程度入るかわからないが検討課題として入れてほしい。
- ・老朽化している富山武道館と高岡武道館について、廃止だけでなく存続も含め検討いただきたい。
- ・全体としては、武道館機能を有する多目的施設が良いのではないかとこの案に賛同を得たと思う。同様施設の中で差別化を図っていく工夫が必要ではないかと思う。武道館だとアリーナに比べて正方形に近いと思う。そこが良い形でうまく利用できればいいのではないか。作るものの個性をうまく引き出すようなことも次の委員会で考えていただくと他の施設と差別化が図れるのではないかと思う。

【まとめ】

- ・案について賛同する意見であった。
- ・検討会として、案のとおり、取りまとめを行い、報告書を知事に提出する。

3 大規模アリーナと武道館整備の必要性と課題の整理

(1) 大規模アリーナ

① 必要性

アリーナは、雨天・冬季の健康増進やスポーツを楽しむ施設であり、大規模なコンサートも開催できる施設であると同時に街の活性化につながる。

② 整備・運営にあたっての課題

○ 類似施設をみても整備費が多額となる。

(8,000人規模アリーナの場合で、100～170億円。サブアリーナを設けないなど面積を縮小した場合でも80～130億円となる可能性があるが、その場合には、全国大会開催時に運営に支障をきたす恐れが高いため現実には厳しい。)

○ 集客面での賑わい創出が限定的なうえ、維持管理費(8,000人規模アリーナの場合で、260～420百万円/年程度)が大きくなる懸念

③ 検討会としてのまとめ

多額の整備費に加え、毎年の収支差額(8,000人規模アリーナの場合で、185～345百万円/年程度)を多額の税金で補填することは、多くの県民の理解が得られないのではないかと懸念。

(2) 武道館

① 必要性

富山武道館と高岡武道館とも、老朽化が進み、空調設備もなく手狭である。また、新たに整備してほしいとの要望も出されている。

② 整備・運営にあたっての課題

○ 武道競技だけでなく、県民の健康増進やイベント等に利用できる多目的な施設構造とすることが必要。

○ 新たな武道館と既存の2武道館を県で維持管理していくことは困難であり、統廃合が必要。

③ 検討会としてのまとめ

武道競技だけでなく、多くの県民に親しまれるよう他のスポーツ競技や、イベントができるよう配慮できれば、整備の可能性があるのではないかと懸念。

また、武道館機能を有する多目的施設を整備する場合は、既存の富山武道館と高岡武道館の統廃合を検討した上で、利用者に配慮され多目的にも活用できる機能的な施設となるよう留意する必要がある。

4 検討会としての方向性

(1) 新たな施設整備にあたっては、本県の行財政状況を十分考慮したうえで、スポーツ振興、競技力向上や県民の健康増進、さらには地域の活性化に寄与するものとしていただきたい。

(2) 武道館機能を有する多目的施設(観客席 2,000～3,000人規模)を整備することが望ましいと考える。その場合には、県内各地からの利便性が高く、集客しやすい場所に、利用者に配慮され多目的にも活用できる機能的な施設(1F部分にパイプ椅子を設置する場合には、4,000～5,000席程度)となるよう留意していただきたい。

(3) 今後は、武道館機能を有する多目的施設の整備に向けて、立地場所、整備計画、管理運営計画等について具体的な検討を進めていただきたい。

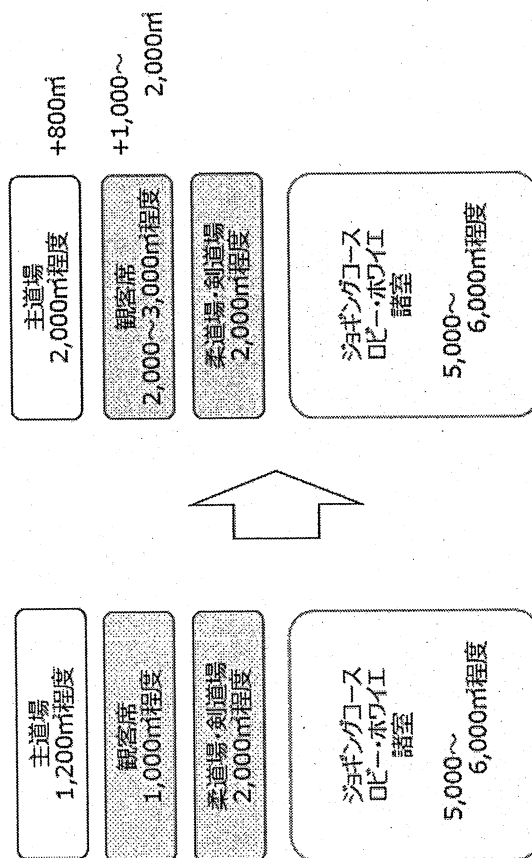
なお、新たに整備される武道館機能を有する多目的施設と既存の富山武道館と高岡武道館の統廃合については、今後、地元市をはじめ関係方面と十分協議し、適切に対処していただきたい。

武道館機能を有する多目的施設 (イメージ)

■ 武道館機能を有する多目的施設 (観客席2,000~3,000人規模) ※なお、1F部分にパイプ椅子を設置する場合には、4,000~5,000席程度

武道館機能を有する
多目的施設
(観客席2,000~3,000人規模)
想定面積

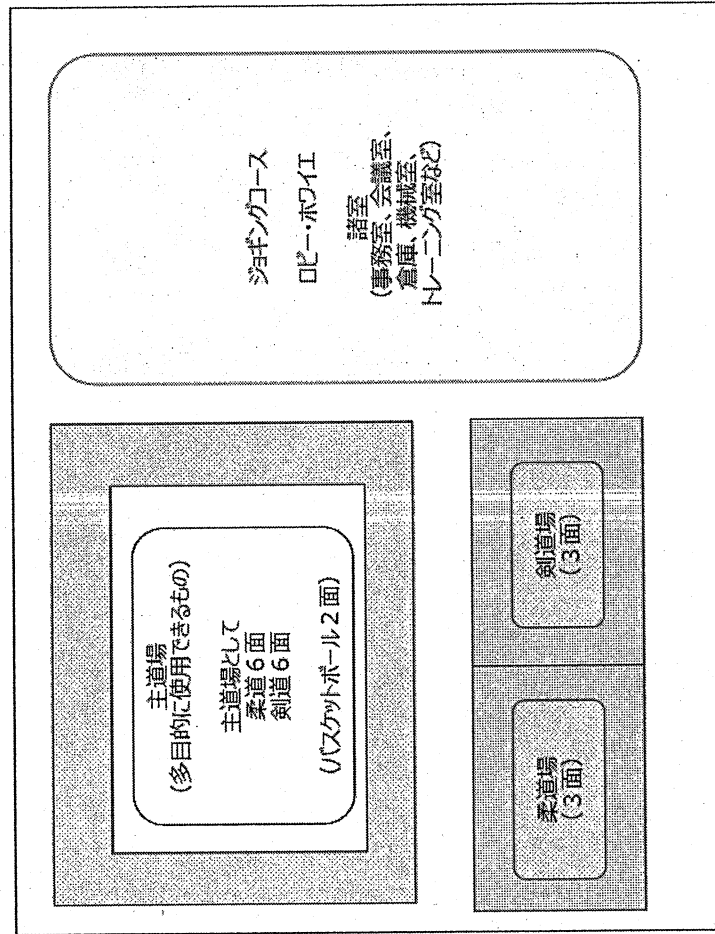
武道館
(観客席1,000人規模)
想定面積



2,000~3,000人規模施設
延床面積 11,000~12,000m²程度
敷地面積 10,000m²程度
建設費 85~95億円程度
※類似施設を参考に算出

1,000人規模施設
延床面積 10,000m²程度
敷地面積 10,000m²程度
建設費 60~70億円程度
※類似施設を参考に算出

イメージ・概念図



※基本計画策定の際に精査し、改めて見直す必要がある。

◆設置要綱

健康・スポーツ環境充実検討会設置要綱

(目的)

第1条 健康と運動、スポーツ環境の充実について、ソフト・ハードの両面から広く有識者の意見を求めるため、健康・スポーツ環境充実検討会(以下「検討会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 検討会は、次に掲げる事項について検討し、とりまとめを行う。

- (1) 健康と運動・スポーツ環境の充実に関すること。
- (2) その他、前条の目的を達成するために必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 検討会は、別表に掲げる委員で構成する。

- 2 委員は、知事が委嘱する。
- 3 委員の任期は、1年とする。ただし、再任は妨げない。

(座長)

第4条 検討会に座長及び副座長を置き、座長は委員が互選し、副座長は座長が指名する。

- 2 座長は、会議を進行する。
- 3 座長が出席できないときは、副座長がその職務を代理する。

(会議)

第5条 検討会は、知事が招集する。

2 知事は必要があると認めるときは、検討会に委員以外の者の出席を求めることができる。

(庶務)

第6条 検討会の庶務は、富山県総合政策局スポーツ振興課において、処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、検討会の運営に関し必要な事項は、知事が別に定めるものとする。

附 則

この要綱は、平成30年7月24日より施行する。

附 則

この要綱は、平成31年4月1日より施行する。

◆委員名簿

(五十音順)

氏名	所属及び職名	備考
石倉 慎也 吉田 守一	日本政策投資銀行富山事務所長	
片貝 仁子	富山県生涯スポーツ協議会副会長 富山県健康寿命日本一推進会議委員	
神川 康子	富山大学顧問	
橘川 謙三	富山県武道協議会理事長	
近藤 裕世	富山県商工会議所女性会連合会長	
佐藤 綾子	富山国際大学現代社会学部准教授	
西川 友之	富山県スポーツ推進審議会委員	
西村 幸夫	神戸芸術工科大学教授 東京大学名誉教授	座長
牧野 裕一郎	富山青年会議所直前理事長	
間野 義之	早稲田大学スポーツ科学学術院教授 スポーツ庁スタジアム・アリーナ推進官民連携協議 会幹事	
麦野 英順	富山経済同友会代表幹事	副座長
綿貫 勝介	富山県体育協会副会長	

